

# パプアニューギニア国 (PNG) 東部高地州におけるSSPE 発症リスク要因； パキスタン国カラチ、日本全国との比較

研究分担者：東京医科歯科大学大学院脳神経病態学（神経内科） 水澤英洋， 研究協力者：長岡西病院神経内科、日本大学 高須俊明

## （単変量解析での粗オッズ比による比較）

説明変数	PNG国東部高地州、 1997-1998	パキスタン国カラチ、 1980-1988	日本全国、 1982-1988
1歳未満麻疹	21.480 (p=0.004)	2.783	11.037 (p<0.001)
1歳麻疹	8.354	3.225 (p<0.01)	2.435 (p<0.05)
2-4歳麻疹	1.489	0.763	1.782 (p<0.001)
5歳以上麻疹	0.000	1.428	0.437
2歳未満麻疹	35.974 (p=0.001)	3.733 (p<0.001)	8.966 (p<0.001)
5歳未満麻疹	11.277 (p=0.000)	2.115 (p<0.050)	0.437

## （多変量ロジスティック回帰解析での調整オッズ比による比較）

説明変数	PNG国東部高地州のモデル	パキスタン国カラチのモデル	日本全国のモデルの
1歳未満で麻疹に罹患			7.31 (p<0.01)
2歳未満で麻疹に罹患	21.086 (p<0.013)	2.451 (p<0.018)	
初回ワクチン受種後8週間以上経て麻疹に罹患	0.041 (p<0.017)		
ワクチン受種、麻疹未罹患	0.141 (p<0.000)		
重症または反復感染歴		6.261 (p<0.012)	4.00 (p<0.02)
頭部外傷歴			2.70 (p<0.05)
てんかんまたは痙攣歴有		34.308 (p<0.012)	2.90 (p<0.02)
Nagelkerke決定係数	0.411	0.229	不明
Hosmer-Lemeshow検定	p=0.639	p=0.991	不明

## 解 説

- 1歳未満麻疹、2歳未満麻疹のリスクが、PNG東部高地州では著しく高く、カラチではそれほどでなく、日本では2地域の間であった。
- PNG東部高地州で、麻疹予防に有効であったワクチン受種がSSPE発生を軽減させたことを証明した。
- カラチや日本で重症または反復感染歴、頭部外傷歴、てんかん・痙攣歴がリスクであったように、何らかの副次的因子がリスクとなっていた可能性が、PNGでもあり得た。